

平成30年度 学校自己評価票

(計画段階 ・ 実施段階)

70

福岡県立三池高等学校長

印

学校運営計画				評価(3月)
学校運営方針	県立高校として福岡県の目指す教育目標に沿いながら、校訓である「進取、至誠、自治」の精神を涵養する教育を行う。			B
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
昨年度は創立百周年を記念する様々な学校行事をとおして、生徒の主体性を身に付けさせることができた。平成30年度は、その主体性の質をさらに高め、さらなる成長と自立に向かわせることが課題である。また、質の高い授業をとおして生徒の学力向上を図り、併せて地域に本校の魅力を発信し、地域に根ざした普通科高校としての教育力向上を図る。	確かな学力の育成	学習指導要領の改訂を踏まえ、知識・技能の活用や思考力、判断力、表現力の育成を図る質の高い授業を行い、生徒に自ら主体的に学ぶ姿勢を確立させる。		
	キャリア教育の充実	「総合的な学習の時間」等の充実をとおしてキャリア教育の推進を図り、高い志をもって、進路目標が達成できる能力を身に付けさせる。		
	生徒会活動の活性化、安全に対する意識の向上	「進取・至誠・自治」の校訓に則り、生徒の主体的な活動をとおして、自己指導能力を身に付けさせる。		
	地域・同窓生との連携	本校の教育活動の魅力や成果を地域及び同窓生に発信する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
学力向上	自律した基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 自ら考え行動し、三高生らしい生活習慣を身に付けさせる。 心と体の健康に留意し、皆勤を目指して生活させる。 基本的な生活習慣の中に、それぞれの学年に応じた学習習慣を確実に位置づけさせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 三高生らしい自律的な生活習慣は身に付けさせることができている。しかし昨年度より欠席者数が増加しているため、心と体の健康の維持に努めさせ、家庭との連携を密にして担任や保健部と連携し早期の対応を図っていく。 授業改善に努めているが、生徒の学習への取組において二極化が見られる。家庭学習の定着度を含め、生徒の習熟度に応じた対応した指導が必要である。 新学習指導要領への移行を控え、本校の現状及び生徒に実態にあった教育課程の検討を早急に進める必要がある。
	学習習慣の定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態を把握し、興味・関心をひく授業を行う。 ICT等の活用や言語活動の充実根ざし、学ぶ喜びを感じることのできる授業を工夫する。 家庭学習の大切さを理解させ、予習、授業、復習の定着を図る。 	B	
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査において、各教科で「思考・判断・表現」の観点に係る問題を出題し評価に活用する。 高校3年間の指導計画、評価の観点・評価方法等を明確にし、見通しを持って生徒が授業に臨めるようにする。 	B	
	生徒の学習意欲の喚起と新たな教育課程への編成	新学習指導要領や大学入試共通テストに対応できる教育課程を検討する。	B	
企画・広報	平成31年度入試の志願者倍率、1.2倍超を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 中学生対象行事(中学生進路相談事業、オープンスクール、中学生による本校訪問等)や中学校訪問、及び高校説明会を計画的・組織的にを行い、生徒会や他分掌との連携を図ることによって、本校の魅力や生徒の主体的な諸活動を効果的に伝える。 県境入試制度に対応するため、熊本県北部の中学校へのPRを着実にを行う。 三高だよりや総合新聞等の広報紙及び学校案内を、レイアウトを工夫して読みやすく親しみやすいものにし、中学生だけでなく、小学生や地域の方々に向けて発行する。また、その際、校外掲示板やホームページの活用により、生徒の諸活動の様子や本校の教育活動の特徴等を積極的かつ好時機に発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全校朝礼、オープンスクール、芸術鑑賞等の学校行事の日程と内容を柔軟に設定するとともに、関係部署との連携・協働態勢を強固にする。 学校案内パンフレットや学校新聞等において「人々の関心を引きつける」広報媒体を作成するために、生徒等の意見も取り入れた記事や情報を掲載する。 中学校訪問の説明内容の精選及び実施時期の柔軟な設定を図る。
	総務班関係行事及び業務の迅速な準備と正確な記録、円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> 各行事の計画を2ヶ月前から行い、各部・各班や学年との連絡調整を緊密に行う。 各行事の業務分担割については、業務内容や担当分掌に鑑みて適材適所で配置するとともに、実施要項を1ヶ月前に提示し、計画的かつ円滑に運営できるようにする。 	A	
キャリア育成	「総合的な学習の時間」の計画的運営	<ul style="list-style-type: none"> 学部学科研究により進路意識を高揚させる。 主体的な活動を通し自己を高める能力を育成する。 小論文やディベート活動を通し自己表現力を養成する。 「志講演」をとおしグローバルな視野を持った人材を育成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全学年、進路意識の高揚が課題となっている。総合的な探究の時間やHRなどを活用して学部研究や進路探究の機会を有効に活用する手立てを講じなければならない。 模試分析会をさらに充実させるため、ベネッセ等の関係業者のデータをどのパソコンからも見られるように環境を整え、より具体的に各教科で対策を図るとともに、新しい入試制度の情報提供及びその対策を継続して行う。 模試の成績をみると、学力の二極化が顕著に表れている。この状況を改善するために、成績下位の生徒と上位の生徒の指導の工夫や補習を有効に活用する工夫を各教科で考えてもらう。また、アンケートの結果などをとて、補習時間の工夫や復習考査の改善を行う。 “朝補習”を”朝課外”へ名称変更する。
	個に応じた第1志望進路の決定と面談及び個別指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 模試分析会の充実を図る。(学年・教科で課題を共有し、具体的方策を立て授業改善に活用する。) 小論文・面接指導の充実を図る。(「総合的な学習の時間」の活用や職員連携による指導) 受験校の綿密な検討を行う。(入試制度を理解させ、有効な受験校選択・出願を促す。) 就職指導の充実(担任・学年団と連携を取り、早期より計画的指導を行う。) 	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
研修・図書	教科指導力の向上及び授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業相互参観週間の設定や教育センター等の外部での研究授業やICT教育、人権教育等の研修会への積極的参加を呼びかける。 外部の研修会に参加して得た成果を各教科等で共有し、指導力の向上を図る。 各教科代表者の研究授業を実施し、合評会を通して授業力及び意識の向上を図る。 授業アンケートを実施することで、生徒の実態や各教科の課題を把握・認識し、授業改善を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書館棟の解体に伴う、生徒達への図書の閲覧方法及び図書委員会の活動を検討する。 効果的な校内研修の内容や実施方法、実施時期の検討を行う。 校外研修に参加しやすいシステムを構築する。 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善の推進を図る。 1年次における人権教育教材の検討、教育実習全般の効果的な運営を行う。
	生徒の読書量増加と図書館の利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> 他分掌や学年、教科と連携し、生徒の読書に親しむ態度を育成する。 図書委員会主体で三高祭、読書活動の推進等を行う。 図書委員合同研修会で得た成果を、ライブラリーニュース等を通じて全校生徒に還元する。 	A	
	人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 全教科・領域における人権教育に関する情報を収集する。 学年検討会を授業実施日の2週間程度前に設定し、十分な準備時間を確保する。 	A	
健全育成	生徒会活動の充実、部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等に年間の見通しを持ち、ビジョンを明確にして生徒会執行部のリーダーシップのもと、企画・立案・実行できるよう指導する。 生徒の主体的活動を促すことを生徒会の主な課題と位置づけ、生徒会執行部と教員との連携を密にし、生徒が主体的に学校行事等の運営を行うシステムを確立する。 部活動紹介や体験入部を充実させることで新入生の部活動加入促進を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の意識を高め、生徒会執行部を中心とした主体的活動を継続する。 指定ソックなどの指定物品に係る校則の見直しを検討する。 SNS等に関する専門家による講演会を実施し、規範意識等の醸成を図る。 ICT活用の推進のために機器等を含み環境整備をネットワーク管理と協働して検討する。 危機管理マニュアルの見直しを継続して行う。
	安全教育の徹底と問題行動の未然防止 事件・事故等の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> 積極的生徒指導を全職員で行い、問題行動が起きない環境づくりを行う。 生徒会執行部・各種委員会・運動部員を中心に挨拶の指導を徹底し、三高生としてふさわしい行動が取れる生徒を育成する。 集会やHR等で交通ルール遵守、命の大切さを訴え、自他に思いやりが持てる生徒を育成する。 外部講師による生徒対象の講演会・研修会を実施する。 	B	
健康・安全	いじめの未然防止と特別支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談委員会(いじめ問題対策委員会)等を定期的に実施して早期発見・早期対応に備えるとともに、長期欠席防止やいじめ防止等に努める。 担任・学年・教科担当・保健室との連携を図りながら迅速な対応を行う。関係医療機関との連携を密にする。 特別支援教育コーディネーターを中心に、各学年の教育相談担当者と連携を取りながら、特別支援を要する生徒の把握に努め、情報共有する。(生徒カルテの作成) ユニバーサルデザイン化された校内環境、教室環境、学習環境の整備を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会による啓発活動の充実を図る。 さらなる危機管理能力の向上に向けた防災避難訓練の内容を検討する。 保健・美化委員会での主体的な活動を支援する。 月一大掃除を利用した定期的な清掃活動の内容充実を図る。 特別支援、危機管理等に関する職員研修の実施を検討する。 「気づき共有シート」の活用及び教育相談担当者の活用と連携を深める。
	環境の整備と快適な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 月一大掃除の内容を充実させ、行事毎に検討・計画する。 美化委員会を中心にゴミの持ち帰りの徹底や減量化に向けた活動を行う。 	B	
学年経営	(第1学年) 基本的な生活習慣の確立及び基礎学力の充実	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席については、生徒に内発的な変化を促すような問いかけとともに、担任を中心に家庭と密接に連絡を取り合いながら指導する。 教員が率先垂範し、社会生活・学校生活の中で求められる行動(挨拶・時間厳守など)を身に付けさせる。 大学入試共通テストに備え、英語の資格試験に挑戦させるなど、特に英語学習に力を入れさせる。 成績不振者には、適宜個別指導を行い、基礎学力の定着を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「凡事徹底」の学年目標のもと、個人として集団として、より高い意識で基本的な生活習慣の確立を図っていく。 校外の教育活動を利用し、生徒に経験を積み、生徒の視野を広げる。 キャリア育成部と連携した「総学」の計画及び実行を図る。 補習受講や英検受験を推奨し、学習に対する前向きな雰囲気を作り、生徒の学力を伸ばす。
	(第2学年) 規律ある生活習慣の確立及び学力の充実	<ul style="list-style-type: none"> 現在の状況を絶えず生徒に問い掛け、内発的な変化を促す。 修学旅行等の学校行事を通して規律・時間厳守を体現させる。 家庭との連携を密にし、心と体の健康を通し、基本的実践力を身に付けさせる。 英数国の予習を中心とし、理科社会も含めた家庭学習習慣の充実を図る。 二者面談を頻繁に行い、個に応じた進路指導を行う。 オープンキャンパスへの参加を促し、大学からの出前講座を実施する。 	B	
	(第3学年) 希望進路の実現と有権者としての自覚と魅力ある人間形成	<ul style="list-style-type: none"> 生活の記録を活用しながら、学習時間・学習内容などを指導する。 校内での生徒の自学を支援する場の提供を行う。 教室・講義室など校内での勉強会や講座等を企画・実施し、モチベーションと学力の向上を図る。 本年度すべての生徒が満18歳となり、選挙権を有する。政治や経済、日々のニュースに関心を持ち、有権者としての資質を身に付ける必要性を指導する。 1・2年次に指導した、時間厳守や返事、言葉遣いなど社会人としての資質が身に付けているか再確認させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向け、授業の充実等を図りながら学習指導を行い、早期に受験に向かう雰囲気を作る。 補習授業や勉強会等とおして、生徒の学力向上を図る。 学年行事等において生徒のリーダーシップが育成され、大運動会の成功に繋がったと考えている。今後も、生徒のサポートを継続し、生徒が主体的に活動できる機会を増やす。 3年間を通して、学年集会やHR活動を活用して、社会人として必要な資質や他者への思いやりなどを身に付けさせる。